

ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



88



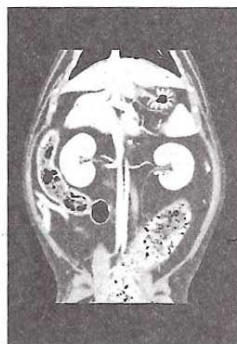
チエルシアアニマル
クリニック院長
(富山市上飯野)

小池 博行

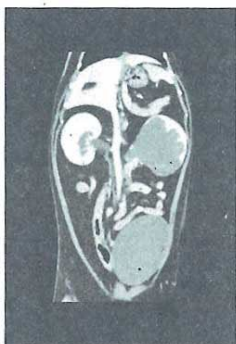
先日、腎盂腎炎で亡くなった猫ちゃんがいました。8歳でした。腎盂腎炎とは腎臓に炎症が起き、腎臓の機能が低下してしまう病気です。この猫ちゃんは尿管結石があり、それが原因となって感染を起し腎盂腎炎になっていました。細菌感染の診断のゴールドスタンダード(標準)は薬剤感受性検査です。どのような菌が存在し、どんな抗生物質が有効かを調べる検査です。今回の猫ちゃんは「薬剤耐性菌」という結果が出てしまいました。

薬剤耐性菌とは、抗生物質(抗菌薬)に抵抗力(耐性)を持ち、

薬剤耐性菌



薬剤耐性菌によって腎盂腎炎を患った猫のCT画像。左が正常像で右が異常像



本来効くはずの薬が効きにくい細菌のことです。抗生物質は、多くの人や動物の命を救ってききましたが、不適切な使用により耐性菌が増え、細菌感染症の治療において

大きな問題となっています。薬剤耐性菌が増えると、これまで治っていた感染症でも治療が難しくなり、重症化や死に至る可能性が高まってしまいます。

ルス」という言葉があります。「人の健康を守るためには動物や環境にも目を配って取り組む必要がある」という考え方です。獣医業だけでなく、畜産業でも感染症を治療

抗生物質は正しく使う

現在、安易に抗生物質を使用しない取り組みを行っている動物病院が少しずつ増えてきています。以前では抗生物質を使っていたケースでも、明確なエビデンス(根拠)がない場合みだりに使用しない取り組みです。こうしたことを続けることで少しずつ耐性菌の発生を減らすことができます。人の世界ではすでに薬剤耐性菌は問題になっています。現在世界で年間約70万人が亡くなっているとき、2050年には1千万人が死亡すると言われています。

「One health(ワンヘルス)」

する目的で抗生物質が用いられていますが、人の医療での使用量よりも多いことが知られています。抗生物質を動物に投与し、薬剤耐性菌が生まれ、動物の排せつ物などを通して人に薬剤耐性菌が伝播したり、環境を汚染したりするサイクルが繰り返されています。われわれ獣医業に携わる者としてOne healthというキーワードを胸に薬剤耐性菌を減らすべく、抗生物質を正しく使用していかなくてはなりません。

毎月第一土曜掲載